

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)藤沢市リサイクルセンター-建設工事	階数	地上4F地下1階
建設地	藤沢市桐原町23番1,23番2,23番3,23番4	構造	S造
用途地域	工業専用地域	平均居住人員	65人
気候区分	地域区分	年間使用時間	1,950時間/年
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2013年12月 予定	評価の実施日	2013年8月5日
敷地面積	22,094 m ²	作成者	株式会社安藤間
建築面積	6,765 m ²	確認日	2013年8月8日
延床面積	11,689 m ²	確認者	川崎重工業株式会社



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.4 ★★★★★

S: A: B+: B-: C:

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

参照値: 100%

建築物の取組み: 97%

上記+ 以外の: 94%

上記+: 94%

(kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5

Q1 室内環境: 3

Q3 室外環境(敷地内): 3

LR1 エネルギー: 3

LR2 資源・マテリアル: 3

LR3 敷地外環境: 3

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 3.1

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.1

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合 太陽光発電、風力発電を設け、環境に配慮した設計とした。また、それらの設備は施設見学者に見える位置に設置し、環境への関心を促す計画とした。 建物を分棟配置とし、広大な敷地からの周辺への圧迫を解消している。		その他 本計画の廃棄物処理棟は、資源ごみの回収、一時処理を行うものである。また、環境啓発棟は、持ち込みの家具を修理、掃除し再利用を促す施設である。
Q1 室内環境 環境啓発棟については排煙を開口部にて確保する計画とした。	Q2 サービス性能 電気自動車充電器を敷地内、道路側から充電できる位置に計画した。	Q3 室外環境(敷地内) 敷地境界線側に緑地帯を設けた。敷地内の既存レベルを生かし、地盤面を設定した。
LR1 エネルギー 太陽光パネルの設置位置は、冬至9時から16時の間に日影にならない位置に計画した。 環境啓発棟は4階一部を壁面緑化とし、壁面温度の上昇に配慮した。	LR2 資源・マテリアル 電気自動車充電器を敷地内、道路側から充電できる位置に計画した。 既存樹木のうち、工事、計画建物に影響のないものは保存する計画とした。	LR3 敷地外環境 敷地と前面道路間の4m程度の高差については1段2mのけん石とし、上部の裏面は緑化する計画とした。敷地境界線付近は緑地帯を設け、歩行者との距離を確保し、建物による圧迫感を軽減した。

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)

「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される